

第38回 長崎市社会福祉大会 大会宣言

今日、私たちの生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により大きく変化しました。

相次ぐ緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令により、長い間、自粛生活を余儀なくされ、この間、学校の休校、商業施設や飲食店への休業要請、イベントの開催制限など、これまで当たり前に行ってきたことができない状況が続きました。

その結果、休業や失業による生活の貧困、外出自粛による心身の不調、社会的な孤独・孤立の問題の深刻化など、私たちは新たな課題に直面しています。

一方で、テレワークやオンライン授業の普及など、社会全体でデジタル化が進み、人と接する機会がさらに減少し、多くの人々が「人や社会とのつながり」の重要性を改めて感じるきっかけにもなりました。

私たちは、これからも“つながりを絶やさない”ための地域福祉活動を続ける必要がありますが、コロナ禍における「新しい生活様式」への取り組みは、その活動の在り方にも大きな影響を及ぼしています。

私たちの日常にあふれている当たり前のことが当たり前でない、今——このような困難な状況下にあっても、私たちがこれまで紡いできた“つながり”を今後も絶やさないために、新たな支え合い・分かち合いの仕組みづくりが求められています。

そのためには、福祉関係者をはじめ、地域の住民や行政、あらゆる分野の団体や企業などが連携・協力し、課題の解決に取り組んでいくことが必要です。

本日ここに、「第38回 長崎市社会福祉大会」の開催を契機として、私たちは、一人ひとりが自分を大切にし、お互いを認め合い、支え合うことができる社会を目指し、「誰もが ぐだんの ぐらしのなかで しあわせを感じられる 笑顔あふれるまち」の実現に向けて、地域福祉の更なる推進を決意し、ここに宣言いたします。

令和4年11月25日

第38回 長崎市社会福祉大会